

# 音楽と私

シニアアンサンブル スルーザヨコスカ 寺戸重光

私が初めて小太鼓に触れたのは小学生の頃。中学校、高等学校とブラスバンドでも小太鼓を担当。マーチを中心に練習した。1966年或る大学に進み、軽音楽部に入部。パーカッションとドラムを練習した。複数のグループからラテンビッグバンドを選択。定期演奏会で、ボンゴ奏者として大阪のフェスティバルホールのステージを踏めたのは自分の一生の思い出である。

充実した日々であったが、当時学生運動が次第に過激になり学内は騒然としはじめた。こんな時代にと疑問が生じ、考え抜いた末、結局軽音楽部を退部した。大学はその後バリケードで閉鎖され、大学のご厚意で卒業式に出席したのは卒業から30年経った2000年の春であった。



卒業後、友人から紹介されたジャズ喫茶で初めてゴスペルを聴き、ニューオーリンズジャズへのめり込んだ。そして色々なジャンルのジャズを聴く事が日常の習慣となっていた。

好景気の下、勤務先の仕事が超多忙となり、残業に次ぐ残業で音楽どころではなくなった。それ以後およそ40年間楽器や演奏とは無縁の生活が続いた。

2014年、ふとしたきっかけでプロのドラマーに出会った。当時67歳。迷いながらの入門であった。練習はメトロノームをイヤフォンで聞きながら 1打、2連打、3連打、4連打、6連打を繰り返し叩きながらバスドラムとハイハットを

連動させる練習。左手の打法は教本「SYNXCOPATION for Modern Drummers」を使用。ドラムスティックの持ち方と持ち方による微妙なシンバルの響きの違いの理解。ジャズで最も重要とされる4ビートのシンバルレガートの練習。シンバルレガートはスティックのリバウンドを利用して4ビートを刻むスイングの打法で、握り方の強弱でテンポが早くも遅くもなってしまう。それを如何にコントロールするか。熱心な先生の下、一年半かけて訓練した。

2018年4月、縁あってスルーザヨコスカに入会。パーカッションの一員として、時にはドラムを演奏する機会を与えられている。充実しており、これもひとえに指導者の先生、団代表及び心暖かい団員のお蔭と感謝している。

それにつけてもスティックの持ち方は難しく、ちょっと油断すると汚いシンバル音になってしまう。きれいなシンバルレガートを如何に正確に持続して叩けるか。どうやらドラムスティックの持ち方は自分の一生の課題になりそうである。